



しつけ 躰（しつけ）の三原則

本校の6月の生活目標は、『トイレのスリッパをそろえてぬごう』です。スリッパや靴をそろえるといえば、『躰（しつけ）』です。そして、『躰（しつけ）』と言えば、国民教育の父と言われる教育哲学者の森信三氏の『躰の三原則』を想起します。『躰の三原則』とは、『あいさつ』『返事』『はきもの』の三つです。『躰（しつけ）』を漢字で表記すると、「美」しい所作が「身」に付くと書きます。『躰（しつけ）』、言い換えれば礼儀・作法は、社会に出た時にお互いが気持ちよく生活するための思いやりの所作です。お互いが気持ちよく生活できると、自分も周りの人も幸せに生きることができます。そのために、大人は、子どもたちに、人を大切にする『思いやりの所作（躰）』を教えるのです。

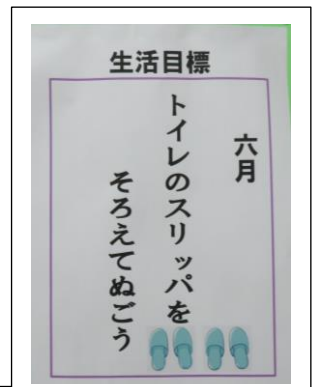
【躰（しつけ）の三原則≪森信三≫】

- 1 気持ちのよいあいさつをします。
あいさつには、「おはよう（ございます）」「お願いします」「ありがとう（ございます）」「失礼します」「いただきます」「ごちそうさまでした」「こんにちは」「さようなら」等があります。
- 2 「はい」と大きな声で返事をします。
- 3 履き物をそろえ、席を立ったら椅子をいれます。
トイレのスリッパや靴箱のくつ等をそろえます。

これらの三つの躰を「つ」のつくうちに身につけておくことが肝要だと提唱されています。「つ」のつくうちとは、「1つ（ひとつ）、2つ（ふたつ）、3つ（みっつ）、・・・8つ（やっつ）、9つ（このつ）」、つまり、9歳までにということです。そして、この三原則を言葉で伝え、子どもにさせるだけでなく、親（大人）自らが率先して行動で示すことが大切だと提唱されています。躰が身につくと、素直な気持ちになり、心の受け入れ態勢が整うと言われています。躰が身についた子どもは、意欲的に学び、吸収し、伸びていくことができるとも言われています。躰は、「し続ける」とも言います。学校と家庭・地域が連携しながら、取り組んでいきたいと思えます。子どもたちが人を大切にして気持ちよく生活できるよう、『生きる力』を付けていきたいと思えます。ご協力をよろしくお願いいたします。

6月の生活目標

トイレは、みんなが使う所です。自分も周りの人も気持ちよく使いたいです。トイレを使用する時に、スリッパがそろっているととても履きやすく気持ちがいいです。逆に、スリッパがそろっていないと、急いでいる時になかなかスリッパを履くことができずに困ります。次にトイレを使う人が、気持ちよく使えるように、やさしい気持ちでスリッパをそろえたいですね。また、スリッパをそろえることは、次にトイレを使う人のためだけでなく、自分も気持ちよくなります。進んでスリッパをそろえてほしいと思えます。



はきものをそろえると 心もそろう
心がそろうと はきものもそろう
ぬぐどきにそろえておくと はくどきに心がみだれない
だれかがみだしておいたら だまってそろえておいてあげよう
そうすればきっと 世界中の人の心もそろうでしょう
≪長野市円福寺の住職・藤本幸邦（ふじもとこうほう）さんの言葉≫

トイレのスリッパ（くつ）の状態を見ると心の状態がわかります。自分のためにも、周りの人のためにもスリッパ（靴）をそろえることを意識しながら、気持ちの良い環境を作りましょう。

3年生が校外学習に行ってきました

6月1日（水）に、3年生が、社会科の学習で、市内巡りを行いました。加古川市の土地の利用の仕方
や特徴について、目で見て、耳で聞いて、直接体験しながら、学習を深めました。



感染防止対策をしています。



とてもいいお天気
で、遠くまで見渡せ
ました。
(日岡山展望台)



市役所を見学しました。



陸上競技場で、「用意、
ドン！」ああ、楽しかっ
た。